

## 2017 年度入学式 式 辞

櫻の花が咲く頃となり、新潟にも春が訪れて参りました。本日この良き日に、ご来賓、教職員の皆様のご臨席のもとに、事業創造大学院大学の入学式を挙行できますことは、この上ない喜びです。本日、60名という大変多くの大学院生をお迎えすることができました。日本人33名、留学生27名です。留学生の国籍別には、ベトナムから18名、中国から3名、モンゴルから2名、インドネシアから1名、カンボジアから1名、台湾から1名、ネパールから1名です。

大学院に入学されおめでとうございます。大学を代表して、皆様のご入学を心から歓迎いたします。これから、皆様の夢に向かって、スタートして下さい。私たちも全面的に応援させていただきます。

特に、留学生の皆さんに、一言申し上げます。遠く母国を離れて異国の地での生活ですので、健康に特に注意して生活してください。日本は四季（四つの季節）すなわち春、夏、秋、冬がはっきりしています。春には花が咲き、夏は暑く、秋には紅葉、冬は寒く雪も降ります。季節によって気温も変わり、衣服も変えなければならぬので面倒な時もありますが、慣れるとむしろ変化を楽しむ気持ちになれます。夏休みなどでは新潟県内外を旅行して、楽しむのもよいと思います。また、日本人のお友達を作り、日本人の考え方を学んでください。日本人は、その性格を例えてクルミだとよくいわれることがあります。クルミは、外側は固いですが、中は柔らかいです。日本人と交流するとき、最初は固くて親しくなるのが面倒で、親しくなるのに時間がかかります。しかし、一旦親しくなると、本当に親しくなれます。沢山の日本人の友人、知人をつくり、将来、母国と日本との懸け橋になってください。

さて、本大学院大学は、2006年4月に開学し、今年で12年目を迎えています。直面する課題を広く認識するとともに、来たるべき時代の潮流を把握しつつ創造的な経済・産業活動に取り組む人材の育成、すなわち日本経済だけでなく、グローバル経済の相互発展に貢献する事業や、企業を独立して、または組織内で創造し、経営する人材を育成することを目的として設立されました。本学はそのために、「研究に基づいた実践、実践に基づいた研究」を理念に掲げ、事業を創造し発展させるにふさわしい高い能力と見識と専門性を備えた人材育成を目指しています。

ここで、皆さんの入学に際して、三つのことを述べさせていただき、お祝いの言葉としたいと思います。

まず一つ目です。

本学では教育の質の保証が担保できるように教育環境が整えられています。五月女副学長から説明があったかと思いますが、カリキュラムでは基礎科目と発展科目、演習科目に分類され、基礎科目は、学問として体系化されたいわゆる、短期間では変わらない普遍性の部分を内容として、最重要視し、演習を伴いながら基礎から発展へと進むようになっています。一方で、具体的な実践も学ぶことが事業創造の能力を高めるには必須です。本学では、第一線の経営者の方々にも客員教授、非常勤教員として加わっていただき、そこから実際の具体性を持った体験を学ぶことができます。また、さまざまな事業を創造して実践していくことが、地域、日本そして世界の社会に変化をもたらし、活性化を生み、現在抱えている困難に立ち向かうこととなります。このような、新規事業を創出していくには、専門的知識に加えて、精神力、行動力、コミュニケーション能力、論理的思考力、抽象化能力なども必要で、これらの能力も養成する必要があります。最近の研究で、困難な課題

に取り組むためには多様性のあるチームの存在が重要ということが分かってきました。多様性のあるチームとは、国籍、人種、年齢、性別、専門などが異なるさまざまな人々から構成され、ある目的のために協力して行動するグループです。この多様性ある人材の活用をダイバーシティと呼んでいます。本学はこのダイバーシティの環境を有しており、教育環境として大変良いと思います。そこで、一つ目に申し上げたいことは、本学のこのダイバーシティの環境を有効に活用し、学習してください、ということです。

次に、二つ目です。

過去のいつの時代でもそうであったようにどこの国でも、組織でも日々様々な課題を抱えて進んでいることは確かでしょう。現状、世界は様々な課題を抱えており、日本では人口減少問題が最近特に最重要とされています。この難題に対して様々な対策が考えられていますが、必要不可欠の対応策が、“イノベーション”をおこし続けることである、と多くの識者が主張しています。将来このイノベーションとの名称は変わるかもしれませんがその重要性、概念は未来に向かって大きな変化はないと思われます。イノベーションは、ご存知のように技術革新を伴うものが多いために技術革新と解釈されることが多いですが、必ずしも技術革新を伴わなくてもよく、新しい社会的価値の創造などを意味し、例えば組織の運営の改革なども含まれます。

未来を予想することは難しいですが、人口の変動は最も予測が外れないデータの一つであることが知られています。日本では、100年後には、現在の1.2億人から0.4億人、すなわち三分の一に人口減少すると予測されています。地方都市が消滅するのではとの予想から人口問題が社会問題化して、様々な対応策が考えられています。一方で、この人口問題の課題は、先ほど申しましたようにイノベーションをおこし続けることが対応への道として最重要であることが指摘されています。

皆さんには信じられないかもしれませんが、第二次世界大戦後の日本は大変貧乏でした。私の子供のころは食べ物もなく、アメリカからお米を送ってもらって何とか生きていました。私の小学校時代に社会科の授業の先生から、日本の人口が多過ぎるので、日本からブラジルなどへの移民が奨励されていたことなども話題にしながら、日本は国土面積の割に人口が多いので貧乏である、と教わりました。このことから、むしろ日本の人口が減ることはよいことなのではないのか、との考え方もあるかもしれません。130年前の日本の人口は、100年後の予想人口と同じ0.4億人でした。その後、増減を繰り返していますが、現在、人口が減ると何故困るのでしょうか。このような根本的な問題を学生同士で議論してみてください。

本学の属する新潟総合学園の池田弘総長の最近の著書「地方イノベーション」では、地方でのイノベーションこそが、現在抱える日本の課題を解決して、日本の未来を創ると主張しています。そのよい例として、お隣の県の山形県鶴岡市のケースを紹介しています。鶴岡市のスパイバーというベンチャー企業を中心とした地域活性化の例です。スパイバーでは、クモの糸の強靭性と柔軟性に注目して、量産そして産業に結び付ける最新の技術を研究しています。これはモノづくりの技術が中心の例ですが、日本はもともとモノづくりが得意ですので大変魅力的な例です。皆さんの興味の対象は、このような技術の他に、金融、流通、食料、観光、文化、教育など様々でしょう。その中で、IoT（モノのインターネット）、ビッグデータ、AI（人工知能）、セキュリティなど最新の技術にも目を向けてみてください。この分野の発達は、社会の構造を変えるほどのインパクトを持っています。そして、世界の未来の方向性はどのようになるのか誰もわかりません。どのようになるのだろうかとの議論を学生同士で展開してください。

本日の入学生には20歳台から50歳台まで、おられますが、社会経験の多い方にとっては、このように議論することが「青臭い議論」と思われるかもしれません。でも、この青臭さが最も大切で、大学院大学に通う学生さんの特権でもあるのです。留学生の皆さんは日本語の「青臭い」の意味がお判りになりますでしょうか。「青臭い」とは、直接は青草か

ら発する匂いを意味しますが、もう一つの意味は、未熟だとか世の中の実情を知らない、との意味があります。「青臭い議論」とは未熟な人が世の中の実情を知らずに議論することを意味します。人口減少が何故、問題なのでしょう。最先端の技術が何故社会構造を変えるのでしょうか。実は青臭くない成熟した人々も分かっているようでわからず、日々の生活に追われて議論する機会もないということが実情ではないのでしょうか。留学生の皆さんは、日本が、この日本の抱える課題をどのように解決していくのか、あるいは短期間には解決できずに長い期間をかけて解決していくのかを、一緒に経験してゆくことも、日本において学ぶ大きな価値となると思います。

一方、世界の人口変動に目を向けますと、現在も人口が増え続けています。現在の70億人の世界人口は、約30年後には90億人になると予測されています。約1.3倍になる訳です。しかも、人口が都市に集中していくことが予想されています。つまり都市化率は現在約50%ですが、30年後には70%くらいすなわち1.4倍になるとの予測です。このことから、1.3の1.4倍すなわち1.8倍の人間が都市に住むことになります。結果として、現在の2倍近くの食料、エネルギー、水が都市に必要となり、多くの人々が暮らす環境に対する投資も必要となります。このような予測は人口変動に基づくもので、それほど間違っていないでしょう。では、この課題をどのように解決したらよいのでしょうか。その際、どのようなビジネスチャンスが訪れるのでしょうか。これらについても是非、「青臭い議論」を行ってください。

グローバリゼーションの動きもおおよそ100年前は国民国家が強く意識され、グローバリゼーションの言葉も聞かれませんでした。その後近年は国民国家というよりグローバリゼーションが強く意識されました。最近ではグローバリゼーションによる格差の広がりなどの弊害が指摘され、トランプ大統領の出現のように、再び国民国家の意識が強調されつつあります。このような国際情勢も考慮しながら議論してください。

このように議論をしながら、世の中の流れを読み解くことが事業創造には、非常に大切なことなのです。

最後に三つ目です。

日本の大学、大学院では、昔から次の様なこと言われています。「大学の教員は、太鼓と同じだ。強くたたくと大きな音が出て、弱くたたくと小さな音しか出さない。」入学された学生さんは、徹底的に学習して、是非先生方に向かって、強くたたいて下さい。そうすると大きく反応してくれます。

以上、纏めますと、

- ①ダイバーシティの環境を有効に活用し、学習してください。
- ②最先端の技術動向、グローバルな世界動向も考慮しつつ、学生同士あるいは教職員も含めていわゆる「青臭い議論」をしてください。
- ③大学の教員へ向けて、積極的に働きかける姿勢を保つことを忘れないでください。

以上、この三つを参考に、皆さんが健康に留意しつつ、有意義な大学院生活を送られることを祈り、式辞と致します。

2017年4月12日

事業創造大学院大学 学長  
仙石正和